

祈年祭 三月十七日齋行

例祭・新嘗祭と並んで一般に神社の三大祭の一といわれる祈年祭。「としごいのまつり」と読み、春の播種始めを祝うとともに五穀の豊饒を祈り、皇室と国家・国民の繁栄をお祈りする祭典です。

食は人間生活の基本であり、五穀の豊穰は農業のみならず産業発展の根本です。この古来の風儀にもとづき、多くの神社では二月十七日またはこの前後に祈年祭を行っていますが、近江神宮では月遅れの三月十七日に祈年祭を執り行います。

古く宮中では二月四日、神祇官で御年の神（穀神）ならびに天神地祇を祭り、幣帛（お供え物）が各神社に頒たれ、伊勢の神宮に勅使が遣わされました。今日では宮中三殿において二月十七日に祈年祭が斎行され、天皇陛下が御親拝になられます。民間では、旧二月に田の神を山からお迎えて行った田の神祭りがそれに相当します。毎年収穫する米のことを年穀といいますが、「年」というのは稲のことで、「稔」の文字を「とし」とも読みます。かつては多くの人々は春の農事始めより田作りに立ち働き、節目節目の神事に神明の加護を祈り、秋の稔りを迎えては初穂を捧げて新嘗の祭りを行ってきました。このような米作りと神祭りとが一体となった春夏秋冬の巡りを「とし」と呼んできたわけです。年と米とが一体になったこのことばは、農作物のなかでも米に特別な意味づけがなされてきたことを表わしています。農耕民族としての日本人の民族性に根ざした大切なことばです。

米は神々への捧げ物の中心であり、米から作った餅・酒は聖なる食べ物である米の神聖さを凝縮したもので、米・酒・餅は神饌物の中心をなしてきました。米粒一粒一粒に神々の御霊が宿り、米をい



初穂講大祭 奉獻米を捧持

ただくことによつて神威を身に受けることになること信じ、一粒の米も無駄にしないようにしてきたのです。

春のお祭りは農作物の豊穰祈願の祭りであり、秋のお祭りは豊作の感謝の祭りです。神社のお祭りや地域の伝統行事は、その多くが農業と密接に結び付いています。農業を守ることは伝統文化を守ることに深くつながっているのです。貿易自由化の時代、産業としての「強い農業」を構築することも必要ではありませんが、

それとともに多くの人が身近に農事に接し、誰もが農事を実感として理解できる社会のありかたを将来にわたつて保つ（取り戻す）ことが必要だと思われれます。その意味で、農業の育成とか外圧からの保護といったことも、経済面だけではなく、そのような意義を十分に考慮した上で、取り組まねばなりません。

東日本大震災二周年

東日本大震災から二年となりました。本年は昭和八年の、いわゆる昭和の三陸大津波から八十周年の年でもあります。この時も三月（三日）でした。震源が離れていたためか、明治二十九年の三陸大津波と同様、マグニチュード八以上という規模の割に地震の被害はそれほどではなかったようですが、津波の被害が甚大なものであったことが、吉村昭氏のルポルタージュ『三陸海岸大津波』に描かれ、また一昨年以来再認識されたところでした。

しかし今回は津波被害もさることながら、原発事故の影響が大きく、立入りや帰郷の制限、原発の廃炉問題そのほか、復興以前の未

解決の問題が大きくなっています。

この間、幕末の安政南海地震に際しての津波からの避難についての「稲むらの火」の物語、昨年本通信にも取り上げた百人一首の末の松山の歌の意味など、いろいろな伝承がクローズアップされました。津波の到達地点、水害や津波の浸水の程度、大雪の深さ、土石流や噴火による火砕流の被害状況など、それぞれの地域で災害の記憶を伝承していく必要が叫ばれるようになりました。十津川・熊野の水害の折、北海道の新十津川の人々と母村の奈良の十津川との交流がいまだに続いていることも強調されました。災害からしばらくたつと危機意識が薄れがちになりますが、災害を避けることはできなくても被害を少しでも減らすことはできる、そのためにはどうすればよいかということをいつも念頭に置いておきたい次第です。

神社としては直接の力になることは何もできませんが、皆様の生活の安定と地域の再生を心よりお祈りするばかりです。

「びわ湖開き」

春の琵琶湖観光のシーズン幕開けを告げる行事として、びわ湖大津観光協会の主催により三月第二土曜日に「びわ湖開き」が行われています。本年は第五十八回になります。春の扉を開ける「黄金の鍵」が船上から投下されていますが、この前日には近江神宮で黄金の鍵をお祓いし、当日も神職が向うして船上で祈願祭を行い、湖上の安全と琵琶湖の環境保護を祈願した上で鍵を投下します。

近江国では古くから湖上交通が発達し物資の運送や人の移動にも利用されていましたが、明治になると湖上遊覧をはじめとする観光



神前に置かれた「黄金の鍵」

産業も発展するようになりました。滋賀県・大津市では早くから観光産業が大きな位置を占め、京阪神をはじめ全国各地から観光客を迎え入れ、その節目として琵琶湖開きの行事を行っています、

NHK短編ドラマ「石坂線物語」に近江神宮登場

京阪電鉄大津鉄道部で毎年募集している「電車と青春21文字のメッセージ」の入賞作品にちなんで、京阪石山坂本線（石坂線）を舞台に描き出す短編ドラマ「石坂線物語」が、NHK大津放送局の制作で滋賀県内で放送されています。その第三作に、近江神宮と時計館・時計工房が、かるた大会の回想シーンにからめて登場します。過日二月二十七日、境内でロケが行われ、滋賀県内のNHK総合テレビで三月十五日に放送され、その後、九月に放送された第一作、十二月に放送された第二作と今回の第三作をあわせて、三月二十七日に衛星放送BSプレミアムで全国放送されます。

春から初夏の祭典・行事

三月十七日	午前十一時	祈年祭
四月二十日	午前十時	例祭 勅使参向
四月二十一日	午後二時	近江まつり子供みこし渡御
五月十七日	午前十一時	崇福寺鎮魂供養祭（崇福寺跡にて）
六月九日	午前十時	献茶祭
六月十日	午前十一時	漏刻祭
六月二十三日	午前十一時	献菓献煎茶祭
六月三十日	午前十一時	日供神饌講社大祭 饗宴祭
六月三十日	午後四時	大祓式

講社通信は近江神宮ホームページでカラーで見られます。

<http://www.oumi-jingu.org/>